

2014年夏のボーナス予測

～前年比+1.6%を予想。ボーナス改善が明確化へ～

経済調査部 新家 義貴

(要旨)

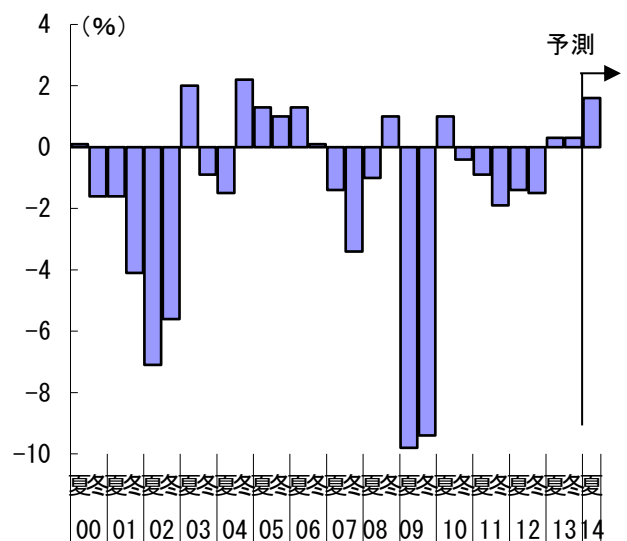
- 民間企業の2014年夏のボーナス支給額を前年比+1.6%と予測する。2013年夏、冬のボーナスとも前年比+0.3%と微増にとどまったが、今夏は伸び率が高まり、ボーナスの改善が明確化するだろう。
- 円安と景気回復による企業収益の大幅増がボーナス改善の主因。春闘でも、組合要求に対する経営側の回答は前向きなものが多く、賃上げムードの高まりが示されていた。円安効果が大きかった製造業だけでなく、内需の好調を受けて非製造業にもボーナス増が広がるとみられる。
- 所定内給与で改善が見込まれる点も好材料。好調な企業業績に加え、政府による要請の影響もあり、春闘賃上げ率は2001年以来の2%台に上昇する可能性が高い。ボーナス算定の基準となる所定内給与が改善すれば、ボーナス支給額にも上昇圧力がかかる。
- 一人当たりのボーナス支給額増加に加え、ボーナスの支給対象労働者数も前年比+1.6%への増加が見込まれる。結果として、支給総額は前年比+3.2%と比較的高い伸びになるだろう。
- 賃金は未だ増加トレンドに入っていないが、ボーナスが上向くことで、次第に明るさが増してくると予想される。ボーナス増による、家計のマインド面でのプラス効果も期待できる。ボーナス支給月である6、7月は、駆け込み需要の反動減からの回復力の強さが試される非常に重要な時期である。そのタイミングでボーナスがアップすることは、消費の下支えとして重要な意味を持つ。
- 今夏の国家公務員のボーナスは前年比+12.1%を予想する。復興財源捻出の一環として、これまで国家公務員賞与は9.77%削減されていたが、この特例措置が終了し水準が戻ることで、前年比では非常に高い伸びになる。

1. ボーナスの改善が明確に

民間企業の2014年夏のボーナス支給額を前年比+1.6%（支給額：36万5千円）と予測する。2013年夏、冬のボーナスとも前年比+0.3%と微増にとどまったが、今夏は伸び率が高まり、ボーナスの改善が明確化するだろう。

円安と景気回復により企業収益が大幅に増加したことがボーナス改善の主因だ。企業は近年、ボーナス決定にあたって業績連動の度合いを強めており、業績改善が素直にボーナス増に繋がる見込みだ。実際、「一時金満額回答」の文字が新聞紙面を賑わしたことから分かる通り、春闘においても、組合要求に対する経営側の回答は前向きなものが多く、賃上げムードの高まりが示された。

資料1 ボーナスの推移（前年比）



(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計」

(注) 予測は第一生命経済研究所

資料2 2014年夏のボーナス予測（民間企業）

	12年		13年		14年
	夏	冬	夏	冬	夏(予測値)
一人当たり支給額(円)	358,368	365,687	359,317	366,865	365,066
前年比(%)	-1.4	-1.5	0.3	0.3	1.6
支給対象者数(万人)	3644	3768	3684	3833	3743
前年比(%)	1.6	1.0	1.1	1.8	1.6
支給総額(10億円)	13,060	13,777	13,239	14,064	13,666
前年比(%)	0.0	-0.8	1.4	2.1	3.2

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計」より第一生命経済研究所作成

(注) 1. 民間企業は従業員規模5人以上、パートタイム労働者含むベース

2. 支給対象者数：民間企業＝ボーナス支払い時期の常用雇用者数×支給対象従業員割合

3. 支給総額：一人当たり支給額×支給対象者数

4. 前年比の増減率は、実額から計算した場合と一致しないことがある。

2. 非製造業にも広がり

ボーナス増加に広がりが出ると予想されることも今夏の特徴だ。ボーナスの増加率は、円安効果が大きかった製造業で大きくなるとみられるが、これまで改善が遅れていた非製造業でも増加が確認できると思われる。

13年の景気回復の特徴として、外需が伸び悩んだ一方で、個人消費や公共投資といった内需が好調だったことが挙げられる。外需主導の回復が多い日本としては珍しいケースだ。こうした内需の好調を受けて、非製造業にもボーナス増が広がるとみられる。

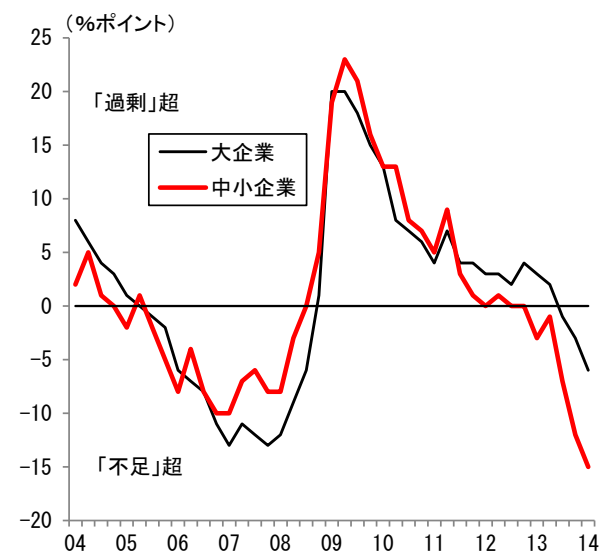
3. 月例給与も改善へ

所定内給与で改善が見込まれる点も好材料だ。春闘における企業の回答状況を見る限り、今年の春闘賃上げ率は2%台に上昇する可能性が高い。2%台の賃上げは2001年以来、実に13年ぶりのことである。事前には、人件費の恒常的な負担増につながる月例給与の引き上げについては、企業は慎重姿勢を崩さないとの見方が多かったが、実際には予想を上回る数の企業がベースアップに踏み込んだ。業績が非常に好調であることに加え、政府からの強い要請が賃上げ

を後押しした面もあるのだろう。

こうした賃上げは、大企業だけでなく、中小企業にも広がるとみられる。景気回復を受けた労働需給の引き締めから、足元では中小企業での人手不足感が強まっており、人材確保の観点から賃上げ圧力が生じる可能性が高い。所定内給与は2月時点で依然マイナス圏にあるが、4月以降は改善が見込まれる。ボーナス算定の基準となる所定内給与が改善すれば、ボーナス支給額にも上昇圧力がかかるだろう。

資料3 雇用過剰感の推移



(出所) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

4. 支給総額は高い伸びに

一人当たりのボーナス支給額増加に加え、ボーナスの支給対象労働者数も前年比+1.6%への増加が見込まれる(2013年夏:+1.1%)。結果として、支給総額は前年比+3.2%と比較的高い伸びになるだろう。

賃金は未だ増加トレンドに入っていないが、ボーナスが上向くことで、先行きは次第に明るさが増してくると予想される。ボーナス増による、家計のマインド面でのプラス効果も期待できる。

5. 公務員ボーナスも増加

ボーナスの増加は民間企業にとどまらない。今夏の国家公務員のボーナスは前年比+12.1%と非常に高い伸びになることが予想される。

復興財源捻出の一環として、国家公務員の給与は「国家公務員の給与改定及び臨時特例に関する法律」に基づいて2012年4月から平均7.8%(ボーナスでは9.77%)減額されていた。しかし、この措置は14年3月末をもって終了したため、給与水準が元に戻る形になった。結果として、前年比では非常に高い伸びになることが予想される。

地方公務員給与についても、2013年7月より政府からの要請という形で減額措置が行われていたが、これも14年3月末で終了した。そのため、夏のボーナスは前年比で上昇が予想される。ただし、この政府要請については強制力がな

ったため、自治体によって対応が分かれており、削減を実施しなかった自治体も多くみられた。そのため、ボーナスの上昇率は、国家公務員に比べると小さなものになるだろう。

6. ボーナス増が消費を下支え

14年4月の消費税率引き上げを前に、駆け込み需要が大きな盛り上がりを見せた。自動車や家電といった高額商品だけでなく、日用品やサービスなどにおいても駆け込みが生じ、1-3月期の個人消費は大幅に増加したとみられる。今回の消費税率引き上げにあたっては、駆け込み需要の大小について事前に様々な予想が出されたが、結果的には、97年と同程度もしくはそれをやや上回る程度の駆け込み需要が発生したとみられる。

もっとも、駆け込みがあれば反動があるのは当然だ。駆け込み需要が大きかった分、4月の個人消費が急減することは避けられない。1-3月期の高成長と4-6月期の大幅マイナス成長は規定路線として受け止めるしかない。

問題は5月以降の回復ペースだ。97年4月の消費税率引き上げのケースでは、5月以降に個人消費は前月比でプラスには転じたものの、戻りが非常に弱い状態が続き、駆け込みによる需要先食いの影響が長く尾を引いた。

だが、今回は、賃金の上昇が見込まれる点が前回と大きく異なる。ボーナス支給月である6、7月は、駆け込み需要の反動減からの回復力の

資料4 2014年夏のボーナス予測(国家公務員)

	12年	13年	14年(予想)
支給総額(億円)	609.7	620.7	695.4
前年比(%)	-9.4	1.8	12.0
平均支給額(万円)	51.3	52.3	58.7
前年比(%)	-9.2	2.0	12.1
支給対象人数(万人)	11.9	11.9	11.9
前年比(%)	-0.3	-0.2	-0.1

(出所) 人事院、総務省資料より第一生命経済研究所作成

(注) 1. 一般職国家公務員(管理職を除く行政職職員)の成績標準者ボーナス支給額

2. 支給対象人数は一般行政職3級以下とした

強さが試される非常に重要な時期である。そのタイミングでボーナスがアップすることは、消費の下支えとして重要な意味を持つだろう。

また、97年には、特別減税の終了や社会保障負担の増加、金融不安による消費者マインドの急低下など、消費税率引き上げの他にも様々な悪材料が存在したが、今回はそういった事態は想定されない点も重要だ。前回と比べ、消費を取り巻く環境は良好と見て良いだろう。

今回の消費税率引き上げによる家計の負担増は約8兆円にものぼり、悪影響が避けられないのは事実である。だが、前回との環境の相違や、賃金上昇による下支えの存在なども踏まえると、個人消費が底割れし、景気が後退局面に陥る可能性は低いと考えるのが妥当だろう。14年度の景気は緩やかな回復基調を維持すると予想する。

しんけ よしき（主席エコノミスト）